

帰国報告書

日露青年交流センター 日本語教師派遣事業
2018-2019 年

クラスノダール

クバン国立大学

Краснодар

Кубанский государственный университет

田中 裕子

1 年間業務日程

	1～3年生	4年生
秋学期	9月1日～ 秋学期 11月末 東洋学者の日	9月1日～ 秋学期 12月22日～ 試験
	1月1日～1月8日 年始休暇	1月11日～18日 冬期休暇
試験	1月9日～ 試験 1月26日～2月7日 冬期休暇	1月19日～ 春学期
	2月8日～ 春学期 3月末 学部の日 4月初旬 科学週間	4月27日～ 試験 (5月下旬 卒業論文提出) (6月 口頭試問)
春学期	6月17日～28日 試験 (7月上旬 実習) (7月中旬～8月末 夏期休暇)	(7月上旬 卒業)

2 赴任校の概要

(1) 大学の概要

- ・大 学 クバン国立大学
Кубанский государственный университет Kuban State University
学長 アスタポフ・ミハイル・ポリソヴィチ
Астапов Михаил Борисович Astarov Mikhail Borisovich
- ・学 部 歴史・社会・国際関係学部
Факультет истории, социологии и международных отношений
Faculty of History, Sociology and International Relations
学部長 ヴァーシェンコ・アレクサンドル・ウラジミロヴィチ
Ващенко Александр Владимирович Vashenko Aleksandr Vladimirovich
- ・学 科 ① 国際地域研究・外交学科
Кафедра зарубежного регионоведения и дипломатии
Department of Foreign Region Studies and Diplomacy
② 世界史・国際関係学科
Кафедра всеобщей истории и международных отношений
Department of Universal History and International Relations

- ・所在地と 学部連絡先 Россия, 350040, г. Краснодар, ул. Ставропольская, 149
149 Stavropolskaya St., Krasnodar, 350040, Russia
Tel : +7 (861) 219-95-56 Fax : +7(861) 219-95-55
Mail : dean@hist.kubsu.ru

(2) 受入先

- ・国際部担当者 (受入れ担当者) ロータイ・エフゲニヤ・ミハイロヴナ
Ротай Евгения Михайловна Rotai Evgeniia Mikhailovna
Tel : +7(861)219-95-28 Fax : +7(861)219-95-34
Mail : interdep@mail.kubsu.ru
- ・日本語コース 責任者 国際地域研究・外交学科 学科長
エフツシェンコ・アレクサンドル・セルゲーヴィチ
Евтушенко Александр Сергеевич Evtushenko Aleksandr Sergeevich
Tel : +7 (861) 219-95-56 Fax : +7(861) 219-95-55
Mail : dean@hist.kubsu.ru

(3) 日本語コースの概要

- ・カリキュラム、学生数、学習レベル等

学 科	学 年	人 数	科 目	授 業 数 / 週		到 達 目 標
				秋学期	春学期	
①国際地域研究・外交	1	17	日本語	5	4	初級前期
			漢字文化	1		
	2	12	日本語	5	5	初級後期
	3	13	日本語スペシャルコース	3	4	初中級(N3)
			ビジネス日本語	1		
		翻訳の理論と実践		2		
4	14	日本語スペシャルコース	4	4	中級(N2)	
②世界史・国際関係	3	9	日本語	4	4	初中級(N3)

- ・「日本語」の科目名は「主要東洋語」または「主要外国語」だが、便宜上日本語と記載した。いずれも研究対象地域の言語として第一外国語に相当。
- ・①の学科では、東洋学を専攻した学生が中国語または日本語から選択し履修。②の学科では、この学年の入学時のみ日本語選択が可能だった。
- ・派遣教師は基本的に「日本語」のうちの週1コマを担当。1コマ90分。
- ・大学院では今年度日本語の開講なし。
- ・日本語科目のほか、東洋史、世界史、経済、英語、情報処理、体育等の科目がある。

- ・日本語コース設置年
2012年2月
- ・日本語教師数
ロシア人教師4名（うち3名はアシスタント教師、そのうち1名は中国語と兼任）
日本人教師1名（報告者）
- ・日本語履修学生の卒業後の進路
大学院進学（本学、モスクワ、サンクトペテルブルク等）、メディア関係（市内）、
教員（近郊）、日本語講師（本学、市内私塾、フリーランス）、
通訳・翻訳（フリーランス）、日本関連の非営利団体（市内） 等

3 赴任者の日本語教育業務

(1) 授業内容

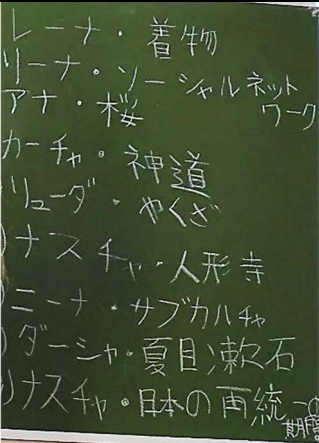
- ・1年生（国際地域研究・外交学科）：17名、春学期のみ週1～2コマ

使用教材	<p>主) まるごと (かつどう・りかい) 入門 副) みんなの日本語 初級 I、クラス活動集 101 等 ※ ロシア人教師は『みんなの日本語 初級 I』を使用</p>
活 動	<p>主に『まるごと』に基づく会話例の練習。チーム対抗でゲームをしたり、学生を先生役にして問題を出させたりすることで、対教師だけでなく学生同士の会話が進むよう心掛けた。</p> <p>学期の後半は、当初中国語クラスと合同で実施されていた「漢字文化」科目から日本語クラスを分離させて受け持ったが、他教師と相談の上、既習漢字の定着を図りつつ同様の会話練習を続けた。</p>
評価方法	<p>「日本語」科目の成績評価者はロシア人教師。</p> <p>「漢字文化」科目も評価者は正規担当の中国語教師だが、漢字テスト（内容はみんなの日本語既習範囲）の作成と採点を報告者が行った。</p>
所 見	<p>初学期だったこともあり出席率がよく活発だった。初回の授業時、既にロシア人教師によりひらがなとカタカナは導入済みだったが、確認も兼ねてサイレントウェイで発音指導を行ったところ、学生側にこの授業では発音や発話を重視するのだという意識付けがされ、以降の授業運営でも役立ったように思う。</p> <p>入学前から自主的に日本語を勉強していたという学生が数名おり、当初はレベル差があったが、授業には協力的でうまく助けてくれた。</p> <p>学期末時点でも全体に学習態度は良いと感じるが、習ったはずの語句や文法事項を会話の中ですぐに理解できないことが散見される。後期は報告者との授業もなかったため、今後より会話に慣れていくことが必要だと感じる。</p>

・3年生（世界史・国際関係学科）：9名、～11月週5コマ、12月～週1コマ

使用教材	主) みんなの日本語 初級Ⅱ、中級へ行こう（秋学期） まるごと 初中級（春学期） 副) まるごと（かつどう）初級2 ※ ロシア人教師は『中級へ行こう』『上級へのとびら』等を使用
活動	秋学期は、担当予定のロシア人教師が手続上の問題で勤務を始められなかったため、『みんなの日本語Ⅱ』の昨年度の続きを進めた。直接法でも円滑に文法導入できるよう絵や例文の選定に留意した。 春学期は、『まるごと』を「きいてはなす」のパートに特化して使用した。進め方は2年生と同様。
評価方法	2年生と同様。（秋学期も、12月に勤務を開始したロシア人教師が評価を担当。）
所見	学習にも発話にも積極的な学生が多く、授業中の雰囲気もよい。ただ他学科の学生と異なりアニメやマンガには興味が薄く、教科書以外の日本語にはあまり触れないという学生が多いためか、直訳しづらい言葉や会話表現について、他学科に比べてニュアンスが把握されにくい印象がある。春学期には2名が神戸市外国語大学に留学した。

・4年生（国際地域研究・外交学科）：14名、通年週1コマ

使用教材	主) 日本語生中継 初中級編1、2 副) 日本語教科書の落とし穴 等 ※ロシア人教師は『上級へのとびら』等を使用
活動	同学科3年生同様、ロールカード等を使用して会話を作った後、教科書の学習をし、最後に当初の会話を発展させ発表する流れで行った。 春学期には書評やスピーチの発表をしたほか、『みんなの日本語』の会話例の状況で今ならどう言えるかを考え、復習と補足をしつつ、4年間での成長を振り返った。
評価方法	2年生と同様。
所見	<p>昨年度、よく学習しているうえ日本のアニメ等にも詳しい学生が多いにも関わらず、話し言葉における縮約形や普通体の知識が薄いことに気が付いた。そこで、今年度は趣味の中で見聞きする日本語にも注意を向け習得に繋げてほしいと考え、授業内容を考慮した。砕けた言葉の習得を目指すわけではないが、徐々にロールプレイの中で役割や状況に応じて文体を気にする姿勢が見られ出した。卒業後も趣味を通して日本語学習を続けてほしい。</p> 

(2) 個人指導・課外指導

- ・日本語能力試験対策（通年、N2・N3各週1回程度）

希望を受け、受験予定者に対し文法や質問事項の解説を行った。

- ・1年生向け会話練習（4～6月、週1回）

春学期に1年生の授業担当がなくなったが会話練習の不足が懸念されたため、ロシア人教師にも相談のもと呼びかけ実施。毎回半数程度の参加があった。

- ・他地域教師と連携した「2018年の漢字」の活動（12月）

昨年に続き全クラスで取り組んだ。自分の2018年を表す漢字を考え、毛筆で書き、希望者が写真を撮って他地域と合同の動画作成に参加した。

- ・学内スピーチ発表会の開催および参加者への指導（3月～4月）

学内の「科学週間」に合わせ開催（4月9日）。授業でスピーチを作成した後参加者を募り、15名が発表した。当日は学生の投票で順位を決め、優秀者を表彰した。



(3) 反省点と今後の展望

秋学期は1クラスを全コマ受け持つことになり、文法導入から一連の授業をするという機会を得た。文法事項への自身の理解を深めたり導入や練習の方法を考えたりと授業準備に苦勞したが、非常に勉強になった。それにより「きちんと日本語を教える」という基本に立ち返ったこともあり、昨年度挙げた「良い意味でのルーチンを作り授業運営を安定させる」という課題は改善できたと考えている。

その一方で、昨年心掛けていた文化紹介や発信への展開は少なかった。しかしこの点に関しても、情報の収集や発信は学生自身の自主的な趣味活動のほうが充実しているため、授業ではそうした活動で活かせる、またはそれを妨げないような日本語の感覚を身につけさせたいと考えるようになった。ロシア人教師でも、日本在住経験が乏しい場合「文法は間違っていないが失礼に聞こえる」というようなことを指摘するだけの語用論的知識や感覚を必ずしも持っていないようである。当然、知識の習得と実践的活動との両方を授業に組み込めれば理想的であり、それは今後の課題にしたいが、この感覚を活かした指導がネイティブ教師として力を発揮するべきところではないかと感じている。

4 その他の業務

- ・他学年および留学生との交流企画

日本語選択者でも学年同士の交流がないため、全学年と日本からの留学生が集まる機会を設けた。(親睦会(10月)、訪日者・留学者の報告会(12月)等)

- ・東洋学科創立記念イベント「東洋学者の日」(11月)

報告者は教職員の劇に参加。学生は有志で出し物を披露し、それに先立ち希望に応じて浴衣の着付けや書道の指導をした。

- ・山口県主催の商談会(1月)

山口県国際課・産業振興課や県内複数企業が、当地のマスコミや企業向けに情報発信と商談のために来訪。同僚教師2名とともに参加した。

- ・新潟大学訪問団との面会および学科紹介(3~5月)

新潟大学農学部の訪問団が3月本学へ来訪し、同僚教師1名とともに会合に同席した。その後、この教師が新潟大学の卒業生であることから語学分野での学生交換について打診する流れになり、5月本学の紹介を新潟大学国際課宛てに送付した。



5 青年交流

- ・SNSページの運営

以下2ページを管理し、市内の様子や授業成果、日本関連のイベント情報等を発信。
Facebook『クラスノダールにほんご Live』<https://www.facebook.com/krasnodar.nihongo.live>
VKontakte『Япония в Краснодаре』https://vk.com/japan_in_krasnodar

	6月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月
FB いいね数	132	138	139	140	151	153	154	154	155	155
VK メンバー数	250	251	250	256	255	255	259	271	269	271

- ・東洋文化イベント(10月)

東洋学教授が参加した学外文化クラブでの講演会に同行し、茶道の実演・試飲提供。

・日本の生徒とのはがき交換（12月）

昨年に続き、三重県朝日中学校との年賀状交換を実施。交換留学先の神戸市外国語大学や他地域の日本語学習者に宛てて書く学生もいた。

・世界民族文化祭（4月）

大学全体で行われる文化祭で、様々な学部や留学生のグループが各国・地域の文化に関するブースを出す。日本からの留学生2名が主体となって日本ブースを出展し、日本語選択の1年生が協力した。

・日本との電話企画（4～5月）

同僚教師の教育研究的取り組みの一環として、2年生の希望者と各地の教師や日本の知人とで電話で話す機会を設け、日本から約20名の協力を得た。日本側学生側ともに、「思った以上にコミュニケーションがとれた」という感想が多かった。



6 任地の生活事情

(1) 電気・水・温水の供給状況

基本的に問題ない。突然の停電や断水、水の濁りなどは2～3か月に1回程度発生したが、いずれも短時間で回復し、生活や業務への影響は少なかった。

(2) 生活必需品の入手

必要なものは何でも寮周辺の店で購入することができた。徒歩数分以内に、スーパー、薬局、本屋、携帯ショップや、文具、電化製品やデジタル機器、衣料品、化粧品を扱う店がある。また、市内に複数の複合商業施設があり、そこでは衣料品や靴、化粧品、文具、雑貨等豊富にそろっている。ただし日本の食材はあまり見当たらない。市の中心部に日本の化粧品やお菓子を扱う店があるが、価格は高い。

(3) 衣・食・住環境

住居としては、大学敷地内にある寮を利用する。本来4人で住む部屋を派遣教師は1人で使用でき、専用のシャワー・トイレがある。テレビもあるが映りは悪い。ベッドリネンとタオル2枚が貸し出され、週に1度交換する。ほぼ毎日担当の方がゴミを回収し

てくれ、定期的にバスルームを掃除してくれるなど、おおむね快適に過ごすことができる。大学で申し込むと寮の有線LANや学内のWiFiを使用できる。

衣類は、冬のコートも含め、日本と同じ服装で問題なく過ごせた。必要な場合は前述の複合商業施設等で購入できる。洗濯は、学生たちは手洗いするか別の棟の有料洗濯機を使うようだが、派遣教師は同じ寮内の短期交換留学生用の無料洗濯機を使用できる。

食事については、授業のある日は大学の食堂をよく利用した。寮には別フロアに共用キッチンがあるが使用せず、簡易電気コンロと炊飯器を自室内で使用した。水は、水道水をフィルターに通したうえ煮沸して使用。周辺のカフェや飲食店、スーパーの惣菜も利用できる。日本料理店も近くにあるが、値段は高め。

(4) 交通の便

大学のすぐ前にトランバイ、トロリーバス、バス、マルシュルートカの停留所がある。料金は市内26ルーブルで、トランバイは夜0時前後まで運転している。中心部へはたいていトランバイで移動した。空港へはトロリーバスで直通。乗り換えの検索は携帯アプリが便利だった。タクシーもよく走っており、電話や携帯アプリで呼ぶことができるが、通勤時間帯や週末は渋滞が深刻。

(5) 物価や治安状況

近所のスーパーで、パンや米など日常よく買う食料品の値上げがあった。ただクバン米は他地域に比べ安いようである。治安については、遅い時間にはあまり出歩いていないものの、日没後でも特に危険を感じたことはなく良好だと言える。

7 終わりに

今年度の活動の中で感じたことのひとつが、「日本語教育と青年交流は別個のものではない」ということだった。街には日本人でなくとも折り紙や碁を教える人がいて、日本文化を紹介する学生のSNSページには1万人以上のフォロワーがいて、言語交換アプリでは簡単に学習者同士がつながれる。そんな中で自分がすべきことは何かと考えると、結局言葉なのではと考えた。インターネットのつながりは広く簡単な一方、長続きしにくく誤解も生じやすい。覚えたての日本語で挑戦した言語交換が、相手に負の印象を与えて終わっては残念極まりない。対策として、実物を通じた実感ある交流をすることも大切しつつ、ネット上の心的距離を縮めるために我々ネイティブ教師の日本語教育が役立つものと考えている。

日本語についてもロシアについても自分自身についても、発見や学びの多い2年間だった。すっかり愛着の湧いたロシアは、今後も自分の好きな国のひとつであり続けると思う。不慣れた報告者にいつも耳を傾けてくれた学生や同僚教職員たち、機会と支援をくださった日露青年交流センター、そして多くの助言と励ましをくれた各地派遣教師ら関係者各位に心より感謝を申し上げたい。

以上